

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号：

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：

乳癌の悪性機序解明及び乳腺腫瘍診断精度向上の試み

Assessment of malignant potential of invasive carcinoma of the breast and trial to improve diagnosis of breast tumors

・目的：

1. 浸潤性乳管癌（IDC）の組織形態因子に基づく、核酸・蛋白発現解析
我々が提唱した IDC の組織形態学的予後因子である線維化巣、異型的な腫瘍間質線維芽細胞、リンパ管内腫瘍性状、静脈内腫瘍性状と腫瘍細胞の細胞形態に基づく腫瘍簇出（浸潤様式）との相関関係を明らかとし、浸潤腫瘍細胞 - 腫瘍間質細胞相互作用、浸潤腫瘍細胞 - 脈管内腫瘍細胞相互作用及び 3 者腫瘍成分による相乗効果が IDC の悪性度亢進にもたらす役割の解明を試みる。さらに、ビメンチン陽性 IDC の悪性度亢進機能の解明を試みる。

2. 腋の下見張り番リンパ節（AxSLN；最初に癌細胞が転移する腋の下リンパ節）転移に密接に関連する核酸・蛋白発現解明

術前生検組織材料を用い、浸潤性乳癌の AxSLN 転移に密接に係る因子を解明する。

3-1. 乳管内良性腫瘍・前癌病変・非浸潤癌の診断精度向上の試み

乳管内乳頭腫、異型を示す乳頭腫、異型乳管上皮過形成/低異型度非浸潤性乳管癌を合併する乳頭腫、並びに非浸潤性乳頭癌、4 疾患を対象とし、核酸・蛋白発現解析を行い、各疾患の診断精度向上を試みる。

3-2. 腺筋上皮細胞腫(AME)の診断精度・悪性度評価向上の試み

良性 AME、異型を示す AME、悪性 AME を対象とし、各々の核酸・蛋白発現解析を行い、診断精度向上を試みる。

3-3. 偽血管性間質過形成(PASH)微小環境の解明

生検標本における PASH が、単独発症の PASH か、癌等の悪性腫瘍に随伴する PASH か、PASH の微小環境を解析し、両者の鑑別を試みる。

・研究期間：IRB承認日から2026年5月末日

・研究対象：

1：2007年4月1日～2015年8月17日

2：2021年1月1日～2021年12月31日

3：2007年4月1日～2021年12月31日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

試料：乳癌及び乳腺腫瘍の検体ブロック、生検・手術検体病理組織標本（HE染色標本、免疫染色標本等）

情報：乳癌及び乳腺腫瘍組織形態像、乳癌・乳腺腫瘍関連蛋白発現（免疫染色）及び乳癌・乳腺腫瘍核酸発現（次世代シーケンサー）

利用する者の範囲

当院における研究実施体制

研究責任者

埼玉医科大学国際医療センター・乳腺腫瘍科

教授

長谷部孝裕

研究実施者・協力者

埼玉医科大学国際医療センター・乳腺腫瘍科

教授	長谷部孝裕
教授	佐伯俊昭
教授	大崎昭彦
教授	石黒洋
教授	松浦一生
准教授	大原正裕
講師	横川秀樹
講師	浅野彩
助教	島田浩子
助教	貫井麻未
助教	山口慧
助教	柳川裕希
助教	黒澤多英子
リサーチフェロー	朝井香子
助教（大学院生）	藤本章博
助教（大学院生）	一瀬友希（学籍番号：P21902）
助教（大学院生）	榊原彩花（学籍番号：P12011）
助教（大学院生）	中目絢子
CRC	涌井紀子
CRC	相原幸子

埼玉医科大学国際医療センター・病理診断科

教授 安田政実

埼玉医科大学国際医療センター・病理診断部

主任 鎌田孝一
臨床検査技師 鈴木展行

埼玉医科大学国際医療センター・がんゲノム医療科

教授 濱口哲弥
講師 平崎正孝

埼玉医科大学国際医療センター・がんゲノム医療センター

課長補佐 鎌倉靖夫

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

研究責任者

埼玉医科大学国際医療センター・乳腺腫瘍科

教授 長谷部孝裕